

第3回善通寺市子ども・子育て支援会議 議事録

1 日 時 平成26年3月27日(木) 午後15時30分～

2 場 所 善通寺市庁舎2階 第2会議室

3 出席者

会 長

委 員 13名

欠 席 1名

4 会議の概要

1. 開会

2. 議事

(1) 子ども・子育て支援についてのニーズ調査結果について

(2) 今後のスケジュールについて

3. その他

4. 閉会

5 資料

・善通寺市子ども・子育て支援についてのニーズ調査結果報告書

6 会議録

【1.開会】

[事務局] 皆さんこんにちは。定刻になりましたので、第3回善通寺市子ども・子育て支援会議を開会いたします。

本日は年度末の何かとお忙しい中ご出席いただきまして、ありがとうございます。

本日の会議につきましては、お手元にお配りの次第に沿って進めてまいります。子ども・子育て支援についてのニーズ調査が終わりまして集計結果が出ています。その結果報告を中心に行っていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

本日の会議の出欠でございますが、委員1名から欠席の届け出が出ていますのでご報告しておきます。

それでは、子ども課課長より一言ご挨拶申し上げます。

[課長] 皆さんこんにちは。今日はお忙しい中、ありがとうございます。

今回のニーズ調査につきましては、前回の会議で内容等をご検討いただきまして無

事調査を終えることができました。また、調査につきまして調査票の配布・回収、ならびに保護者の皆様にはニーズ調査のご回答をいただきまして、ありがとうございます。この場をお借りいたしまして御礼申し上げます。

先ほども申しましたが、今日の会議につきましてはこの報告書を元にして説明を進めさせていただきたいと思っております。どうぞ、よろしく願いいたします。

[事務局] それでは早速ですが議事に入りたいと思いますので、会長よろしく願いいたします。

【2. 議事】

子ども・子育て支援についてのニーズ調査結果について

[会長] それでは次第に沿って進めてまいります。

子ども・子育て支援についてのニーズ調査結果について事務局から説明をお願いします。

[事務局] (資料説明)

[会長] ありがとうございました。ご質問、ご感想、ご意見、何でも結構ですのご発言いただければと思いますが、いかがでしょうか。

[委員] この資料を、できれば事前にいただきたかったと思います。

[事務局] 出来上がってきたのが最近だったということもありますが、この報告書についてはこの場で検討していただくものではないと考えております。何故かと申しますと、この報告書をもとにして、今後どれくらいの方がどのような子育て支援を求められているかといった量の見込みと質、その両方のデータを整理し次年度には情報をお示しできるような形にさせていただきたいと考えております。

[委員] 今こうやって報告を受けても、それに対して委員の皆さんは発言しにくいと思うのですが。

[事務局] データについて、これはどういう取り方をしているのかといったご質問を受け付けることはできますが、数値そのものについて今日この場で検討していただくものではないと考えています。

[会長] そういうことではなくて、要は皆さんがどんな感想を抱いたとか疑問点を聞くために私たちが集められていると思っております。業界の方であれば何となく想像が付くかもしれませんが、特に保護者の方が多い委員会なので、事前に配布していただき一度目を通してもらっておいてからの報告になっていけば、理解しやすくて良かったと

思います。実際これを見て委員さんが何を思ったかを発言していただいたほうが、次年度の作業において、中身の質の部分を議論するという意味の1つのきっかけになるような気がします。今日のやり方では報告を聞くだけで終わってしまう可能性が高くなります。本当に意見を集めようと思えば、そのようにされた方が良いかと思います。

[事務局] 実はこれは、ニーズ量を見込む途中経過でして、今年度出せる精一杯の資料になります。先ほども言いましたが、どういうニーズがあるのかは、改めて次回にもお示しできるものが出せると考えています。

[会長] それはそれで構いません。この会議としてこの資料をどう取り扱うかという話です。要は、こういう調査結果です、と一方的に報告するだけで良いかということです。今後は、やはり事前に各委員に資料を渡していただくようお願いいたします。

[事務局] はい。今後は事前にお示しするようにいたします。次の会議につきましては、資料が出来て配布した後に、時間をおいて開催する形にさせていただきたいと思います。

[会長] 皆さん、ご意見等はいかがでしょう。

[委員] 11ページの具体的な相談相手・場所には、ただ単に地域子育て支援センターとしか書かれていません。実際の調査票でも具体的な名称を挙げない形で対象者にお聞きしているわけですか。31ページの分は「カナン子育てプラザ21」「南部保育所」のように具体的に名称が書かれていますが。

[事務局] こちらに関しましては、設問の関係で大きな括りでお伺いしております。31ページにつきましては、見込みの調査に該当するところがございますので、具体的にどこを利用していますか、と問う設問になっています。

[委員] 何故それを聞いたかと言うと、実はお母さん方は子ども・家庭支援センターのことも地域子育て支援センターとっていらっしゃる方が結構多いので。ですから、聞かれている方が混同して回答されている可能性もあると思うのですが。

[事務局] このアンケートにつきましては、第2回の会議で皆さんのご意見等をお聞きした上で作成したものですので。細かい点では、31ページの方を見ていただければと思います。

[会長] その他、いかがでしょう。

[委員] これは結果報告書ですので、そのまま受け止めてそれで終わりですか。

[事務局] いいえ。これから進んでいきます。

[委員] 今回、吉原保育所の件については、住民として気になっているところです。この結果報告書にはおしなべての数値が出ているだけで、地域の特性については別個に把握されていますよね。

[事務局] データとしては地域別の集計が出ていますが、ただ、その全てをこの結果報告書に記載するわけではありませんので。

[副会長] 病児・病後児保育についてなかなか預けられないと書いてあるのを読むと、耳が痛いです。場所や病気の種類が違っていると預けられないこともあるので。ただ、病児・病後児保育に対する認知度は飛躍的に上がっています。以前は3割程度だったのが今回は8割にもなっています。

[委員] 16ページの「現在就労してない方の就労希望」について。矛盾していますが、83ページの自由回答で「支援があるにこしたことはないが、子育ての主役は父母であると思う。あくまで主役がしっかりしていないと支援の役割は意味がないと思います。」という意見を読んで、幼稚園や保育所の先生に任せるのではなく家庭で教育するとの自覚を持って子育てをするのが大事だと感じました。やはり働きたいという家庭が多いので。

[会長] 子育て支援という言葉がこの10年くらいで市民権を得ましたが、何故子育てを支援するのか、本来子育ては家庭ですべきだという議論も一方ではあります。基本はやはり家庭ですが、支援をどう活用しながら子育てするかといったところがポイントになってくるのでは、と思います。特に保育所では親に代わって先生がおむつを外すなど、親の子育ての負担を何とかしようとする部分と、親をいかに育てていくかが現場の課題だと思われます。先生、保育の現場サイドからはどのような印象をお持ちでしょうか。

[委員] 保育所というのは、子どもを育てる場所であると同時に共働きの世帯を支援していく役割も持っており、やはり一緒になって育てていく側面が強いと思います。家庭の力がなければ進んでいけないので、基本は家庭だと思いますが、今の時代、家庭での保育にプラスして保育所のような支援施設があることが大切だと思っております。同じ年齢の子や大きい子、小さい子、そして職員との人間関係を学べる良い機会ではないでしょうか。

[副会長] 子どもが親の元だけで生活している場合は、もうひとつ成長ができないところがあ

ります。ところが保育所に入れてしばらくすると、人との付き合いなどを通じて社会性が発達し目に見えて成長します。主役はお父さん、お母さんだと思いますが、家庭ではできないことなど、社会性が小さい時から培われるという意味でも保育所は子どもを成長させてくれる場だと思います。

[委員] アンケートでは相談相手に親族や友人が多く挙がっていましたが、保育士を相談相手にしている方も結構いらっしゃいました。保育所が子育てに関する相談の場所の役割も果たしているのではないかと、思います。

[会長] 善通寺市は保育所から幼稚園に切り替わるシステムになっており、子ども自身の性質や家庭環境によっては上手く切り替えられない場合も出てくるので、そのフォローを考えていかなければなりません。就学に対してのフォローは誰でも認知できますが、乳幼児期の保育所から幼稚園というところも上手くスライドしきれていない方には手を差し伸べる必要があります。その辺りは保育所で保護者の気持ちを拾い上げていると思います。

[委員] 年末に保護者会の研修で綾川町の施設を見学させていただきましたが、綾川は全部保育所で幼稚園がないと知って衝撃を受けました。その代わり 0 歳、1 歳から入園してもらい、中学校に入学するまでしっかりとフォローするとお聞きしました。もちろん善通寺でも就学時期のフォローをしっかりとしてくださっていますが、その上を行っていることに驚きました。ぶつ切りではなく長期的に乳児、幼児、小学生、中学生、思春期までしっかりとフォローする体制が見えて、すごくうらやましいと保護者として純粋に感じた次第です。善通寺もこのような体制になれば良いのに、と思いました。

[会長] 地域性がはっきり出ると思います。善通寺はより独自のシステムです。物理的に幼稚園がないとか、保育園所しかない地域だと、地域性によって施策も違ってくると思います。善通寺の問題は幼児期に意外と細かな動きが入ってくるのですが、先生、幼稚園から小学校に上がる子どもたちをご覧になっていらして、どのようにお感じですか。

[委員] 小学校の話をしてみると、気を付けているのはいわゆる小 1 プロブレムです。幼稚園から小学校に上がる際に大きくシステムが変わります。何が大きく変わるかというと、遊びの中でいろいろなものを獲得していくスタイルで小学校に入学してきますが、小学校に入ると 45 分の授業の中で学習を進めるという大きな変換があります。そこに子どもがなかなか対応しきれないのが、今の小学校 1 年生が抱えている問題です。そのところは善通寺がたとえば文字のお稽古やリズム遊びなどを取り入れながら小学校の勉強の形を教えてください。そして今度私たちが中学校へ送り出す時に遭

遇する問題が中 1 ギャップで、突然広い世界に投げ出され戸惑ってしまいます。小学校によってカラーが違い、そのカラーが違う子同士で学校生活を送らなければならないものですから、それについてなかなか対応しきれない子どもが出てくるわけです。でも、そうならないように中学校の先生が出前授業をしてくださったり、カウンセラーの先生が来校していろいろなお話をしてくださいます。このように、実体験ではないけれど疑似体験としてのつなぎは小学校で行っております。先ほど委員が家庭での教育が大事だとおっしゃっていて、嬉しく感じました。学校に全てを任せ困ったら学校で解決してくださいという姿勢は違う、と私は思います。家庭には家庭の役割、学校には学校の役割があって、学校は人間関係や社会性を学ぶ場、家庭は子どもたちの居場所であり、また社会に出ていく姿を見せる場だと思います。学校は社会の中で自立していく方法を学ばせる場なので、保護者の方と常に話し合いながら子どもたち 1 人 1 人のニーズに応じた解決策を考えていくことが必要だと思っています。

それから、先ほど先生が病児・病後児保育の認知度が上がったとおっしゃっていましたが、どのようにして認知度が上がったのかを検証する必要があります。また、認知されていない 20%の方にどれだけ認知を進めていくかも考えなければならないと思います。

いつも思っているのですが、子どもが病気になったら先生の所やカナンで手厚く診てもらえるのをありがたく感じるべきなのに、そういう制度が出来上がったそれが当たり前になってしまい、ものすごく努力されたことへの感謝の気持ちが欠けていっている気がしています。そこを忘れないようにしていかないと要求ばかり高くなって、しまいには要求に追い付けなくなってしまうのでは、と危惧しています。また、子どもが病気にかかった時に親が有給休暇を容易に取れるような社会にしていくべきで、いつまでも方策ばかり次から次へと考えるのには限界が来ていると思います。

[会長] 先生は、いかがですか。保育所から幼稚園へキャッチアップする時に、いろいろな課題が出てくるだろうと想像できますが。

[委員] 私の所は竜川で、保育所で 3 歳まで過ごして幼稚園へと段階を追って来るので、そういう意味では保護者の方が保育所の次は幼稚園と認識して来られていると思います。ただ、ご家庭によっていろいろお考えがあるので、幼稚園にも預かり保育はありますよと言っても時間が足りない、もっと支援が欲しいということで保育所を選ばれる方もおられます。それぞれのご家庭に合った子育て支援を選ぶのは構わないのですが、それが当たり前になってはいけないと、私も思います。支援をありがたく感じる気持ちがなければ子育てを人任せにしてしまいがちになるのではないのでしょうか。支援を受けつつ自分も頑張る、そういう歩み寄りができれば良いと思います。

[委員] たくさんの家庭を見てきて、子育て支援を当たり前と感じているような方もいれば、本当にいつも感謝しています、と言ってくださる方もいます。子どもが 1 歳であればお父さん、お母さんも 1 歳だと思って関わらせていただいております。最初は不安いっ

ばいの顔で来られるのですが、徐々にお父さん、お母さんの顔になっていきます。また、お子さんが成長していく過程を伝えることによって一緒に喜べたりもします。幼稚園に変わる時もお礼を言うてくださる方もいらっしゃいますし、1歳から2歳に上がれるワクワク感を親子で感じてもらったりするのも嬉しく感じます。何よりお母さんたちがどんどん成長していくのを見ることができ、良い雰囲気の中で子どもたちも育っていつてくれています。困った時に何でも相談に来られる方もいれば、1人で悶々と悩んでいるように見える方に声をかけて、やっと打ち明けてくれる方もいるので、保護者の性格も考慮しながら支援していかなければならない難しさも感じております。

[委員] 皆さんの意見を聞いて、私も子育て支援が当たり前だと感じてはいけなかったと思いました。ただ、昔と違っておじいちゃん、おばあちゃんが近くにいないとか特に自衛隊員の家庭が多いので、転勤で核家族になって子育てに行き詰まり、虐待につながるケースが多くなっているのではないかと心配していましたが、73ページを見ると子育てをしていて孤独感や孤立感を感じたことのある方の割合が案外少なかったのを喜ばしく感じています。やはり善通寺の子育て支援の結果がここに出ているのでは、と思いました。支援を当たり前だと感じてはいけませんが、本当に大変な家庭には手を差し伸べていく必要があるのではないのでしょうか。

[会長] 75ページの「市のこれからの子育て支援について特に力を入れて充実させてほしいと思うこと」で、就学前と小学生のニーズは当然違いますが、改めて見てみると就学前のトップは「幼稚園の預かり保育や、保育所での延長保育や一時保育などをより充実させていくこと」で、小学生のトップに上がってくるのは「子どもの心身の健やかな発達や成長を支援する体制を整備していくこと」です。これについて皆さんの話も含めて考えると、何かポイントがあるのだろうと思っています。どういうことかと言うと、子どもの成長や発達を支援していくのは学校もそういう場の1つですが、当然親が子どもを育てるわけですので、その親も支えた上で子どもの成長や発達を考えていけないといけません。この項目だけで見ると子どもだけに見えるのですが、意外とそこには親に対するフォローが含まれているような気がします。それはもしかすると、今皆さんにお話しいただいた保育所から幼稚園、幼稚園から小学校へというそれぞれの領域でされている家庭との付き合いの積み重ねなのかもしれません。だから、学校にお任せではなく、学校以外の所での児童期の子どもを持つ家庭への支援に何か方策を考えていくべきで、スタディアフタースクールのような物理的ではないものが課題として入ってくるかもしれないと思いました。

[委員] 先生方のご意見をお聞きした感じでは、子育て支援に関して当たり前と思われては困る、でも必要だというお話で、親のことを考えるのも大事だが、まずは子どもで、子どものためを思って支援してちゃんと育ってくれれば嬉しい、そういうスタンスで子どものためになることをこれから考えていかなければならない、と思いました。

[会長] 親の代わりに何でもかんでも請け負うというのは、本来の子育て支援ではないような気がします。どうしても待機児童の問題があまりにもインパクトが強すぎるので、親に代わって何とかしようとするのが子育て支援だと思いがちですが、子どもの育ちは本来そういうものではなく、やはりベースは家庭だと思います。しかし、家庭の事情が多様化してきているので皆同じようにというわけにはいきません。その部分を埋めるために、善通寺であればシステムをどのように充実させていけば良いかといった議論を次回以降に進めたいと思います。

今後のスケジュールについて

[事務局] 今後のスケジュールですが、新年度に量の見込み等のデータが上がってきて、事業計画の素案をお示しできるようになった状態で、その素案を事前送付などにより見ていただいた後に26年度の第1回目の会議を開催させていただきたいと思います。最初の会議でお示した日程よりも随分、国や県の状態が遅れています。優に3か月は遅れている状態になっていますので、1年かけて事業計画を策定していきたいと考えております。国の子ども・子育て会議で話し合われたことなど、さまざまな情報を見ながら、こちらとしてもなるべく早めに段取りをつけていきたいと思っております。今の段階では、いつ頃かをはっきりと言えない状況ですが、資料が出来次第、お送りして会議の日時を決めていきたいと思っております。予定では4回か5回開催できればと思っておりますので、お忙しいところ申し訳ありませんがよろしくお願ひしたいと思ひます。

[会長] そうでしたら、今日の議事内容はこれで終わりにしたいと思ひます。活発なご議論を、ありがとうございました。

以上